

ジルコニア補綴装置のセメントスペースの与え方について
How to provide cement space for zirconia prosthesis



笹木 孝夫 Takao Sasaki
日本臨床歯科 CAD/CAM 学会関東甲信越支部
有限会社デンタルオフィスささき（神奈川県横浜市）

歯科技工がデンタル化されたことによって従来技工に劣る事が有ってはならないと考える。適合精度の良い補綴装置を製作するために、従来法である精密鑄造法では、支台歯にスペーサーを塗布し埋没材の混水比または混液比で膨縮を調整して適合をさせていた。一方、デジタル技工ではセメントスペースを数値で設定できる。では、二つとして同じものが無い支台歯に対して何ミクロンのセメントスペースを与えたら良いのだろうか。CAD/CAM 装置導入後メーカー推奨値で製作していたが、適合が緩いと感じていたしそのような指摘も受けた。そこで、同じ支台歯金型でセメントスペースを変えてクラウンを削り出すと、緩くてツイストする、丁度良い、またはきつくて収まらない等変化が認められ、セメントスペースによって適合が変わることが分かった。このことから支台歯の角度を計測して、支台歯角度によってセメントスペースを変え、支台歯ごとに最適のセメントスペースを決定する、精密鑄造と同等以上の適合精度を実現させる超・定量方式を確立した。これらのことから、全ての支台歯において角度計測し、セメントスペースを決定することにより適合精度の良いジルコニア補綴装置を製作できるようになった。